



北中だより

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No18
文責 芹川博文
9月6日(金)

「夏の収穫」シリーズ第3弾(最終回)をお届けします。今回は、夏休み中の部活動や部活動以外での活躍を紹介します。※前回(「その5」)の続きで、今回は「その6」と「その7」です。

「互いに磨き合う 刃を研ぐ」その6 この夏の部活動での活躍

熊本県学年別水泳競技会

3年男子	50m自由形	1位	陶山 僚太郎 さん	タイム	27秒42
//	100m自由形	2位	陶山 僚太郎 さん	//	1分00秒42
//	50mバタフライ	3位	阪田 流煌 さん	//	30秒60
//	100mバタフライ	2位	阪田 流煌 さん	//	1分 8秒22

熊本県吹奏楽コンクール

菊池北中学校吹奏楽部 銀賞

「互いに磨き合う 刃を研ぐ」その7 この夏の部活動以外での活躍

- ◆サッカー 渡邊 颯斗 さん 第39回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会(北海道 開催)
- ◆少林寺拳法 中村 斗真 さん 第18回全国中学生少林寺拳法大会(岡山県 開催)
- ◆作文 松永 祐佳 さん 第46回「少年の主張」熊本県大会 菊池郡市代表選出

北中は、現在108名の生徒がいます。その一人一人の良さや努力を少しでも伝え、広げ、繋いでいけたらと願います。上に紹介した生徒をはじめ、結果の如何に限らず、人知れず努力している生徒たち。そんな「自分らしさ」「My color」が伸び伸びと発揮され、磨き合っていく、そんな北中を目指していきます。

ストローなしの牛乳に

今週から給食の牛乳ストローがなくなりました。意外と生徒たちは、難なく、スムーズに対応しているようでした。(私は、一口目にこぼしました。) かつてはピン牛乳でした。なかなか爪で開けられず、指を突っ込んだことを懐かしく思い出します。その後、三角型のパック、そして今回のストローなし。彼らが大人になった時、ストローで飲んでいた頃を懐かしむのでしょうか。



「行き着いたのは 自分の改善に集中すること」 ～ パリ パラリンピックのアスリートの姿から ～

思いがけず「方向転換」を迫られる時があります。どうしようか途方に暮れ、立ち止まる時があります。もしかしたら、中学時代に「その時」を経験する人もいるかもしれません。

幾多の経験を経て舞台に立つパラリンピック選手の姿に力をもらいます。以下、熊本県出身の富田 宇宙 選手の新聞記事を紹介させていただきます。北中生徒へのエールを込めて。

2024.9.1

新生面

レースの後半、泳ぎがさらに力強くなった。パリ・パラリンピックの競泳男子400m自由形。富田宇宙選手が鮮やかな逆転で銅メダルを獲得し、県勢メダル第1号となった▼大きな夢を持ち、努力しましょう。必ず夢はかないます。東京大会で三つのメダルを獲得した後の講演会。司会者はそう語ったが、富田選手は「悪気がないのはわかるけど、少し違和感があった」という▼済々黌高2年の時に視力が徐々に低下していく「網膜色素変性症」を発症。「あらゆることを諦め、人生の方向転換をいくつも経験した一人」だったからだ。夢を前提にしても前向きに生きられなかった、と本紙連載『パラスイマー 宇宙の視点』で語っている▼自分に残されたものをどう生かせば周囲に貢献し、自分の喜びを獲得できるのか。行き着いたのは自分の改善に集中すること。そうすれば日常的に満足感が得られ、自然と努力したくなり、成長し続けられる。結果よりも過程に価値がある、と▼そんな努力に勝負の神様もほほ笑んでくれたのか。大歓声が響くパリの会場で、富田選手は「苦勞もあつたけれど、こんな大舞台に立てた。障害があったこと、これまでのことにありがとうと言いたい」と語った。彼だけではない。限界に挑む選手たちにはそれぞれの障害があり、幾多の方向転換を余儀なくされてきたのだろう▼大会は「共生社会の実現」を目指す。誰もが誰かを支え、誰かに支えられている。「ありがとう」の意味をかみしめながら熱戦を見守りたい。